押小だより
天真爛漫
（てんしんらんまん）

令和５年９月１日
さくら市立押上小学校
令和５年度　第８号
文責：仁平　博幸

子どもたちの声に幸せを感じて

「おはようございます！」

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。３９日間の夏休みを終え、今週から子どもたちが登校再開です。まず、休み中、大きな事件事故等がなかったことに何より安心しています。保護者や地域の皆様に感謝申し上げます。子どもたちの声を聞いているとやっぱり子どもたちがいるっていいなと感じます。我々教員は子どもたちがいてはじめて成り立つ仕事です。１学期後半戦、もう一度初心に戻って、子どもたちとともに、歩んでいこうと思います。

さて、思い起こしてみると、昨年の今頃は、市内でも新型コロナウイルス感染症が流行し、学校再開も判断が難しかったように記憶しています。感染症は無くなっていないわけですが、基本的な対策を取りながら感染症とともに生活していく、いわゆる「ウィズコロナ」で、持続可能な対応と生活を送っていくことが必要となっています。休み明けですので、もう一度、規則正しい生活と食事を心がけ、体力をつけるなど、感染症に負けない体作りもよろしくお願いいたします。

子どもの中の３匹の鯛（たい）

今回の天真爛漫では、「鯛」のお話をしたいと思います。

「子どもの中には３匹の鯛（たい）がいる」というお話です。

以前、ある研修会で、「子どもたちの心の中には３匹の「たい」がいる」と学びました。その３匹の「たい」とは、次の３つの「たい」です。

①やってみ「たい」

子どもは課題に向かって「やってみたい」という気持ちがあると思います。そういう気持ちにさせることが必要ですし、チャレンジし始めたらあたたかく見守る（どんな小さなことでも、つたないことでも）、時に励まし、助言し、乗り越えさせる…そんなサポートを我々教職員を含めた大人がしていくことが大切です。

②人の役に立ち「たい」

子どもでも大人でも、集団生活をしている中で、「人の（相手の）役に立ちたい」という気持ちがあると思っています。これはこの後の③に関わってきますが、役に立って、感謝される、認められることで自己肯定感や自己有用感が向上し、この仲間、この学級、この学校、この家族にいてよかったな…と感じることができると思います。

③認められ「たい」／ほめられ「たい」

相手から認められたい、ほめられたいといういわゆる「承認欲求」が必ず人にはあります。それが、次の行動の原動力にもなりますし、自他を大切にする、幸せを感じられる子どもたちになっていくと思います。どんな小さなことでも、結果だけでなく、その過程を認めたりほめたりすることで、その子のやる気や幸福度が向上します。

この①②③の「たい」はそれぞれが関係し合っています。スタートはどの「たい」からでもよいのだと思います。子どもたちと接する中で、この３匹の「たい」を見いだし、そして子どもの心の中の３匹の「たい」を大きく、強く、育てていきたいと思っています。夏休み明け、まだまだ子どもたちは調子が出ていないかもしれませんが、ぜひ、ご家庭でも、子どもの中の「たい」を大切に育てていただければと思います。

なお、この「たい」のお話については、上記と異なるものもあるようです。お伝えしたものは、上記のように私が研修会で学んだものですのでその旨ご承知おきください。（仁平博幸）

９月１日は「防災の日」…本校が「防災教育推進モデル校」に指定

今日９月１日は「防災の日」です。今年度、本校は、栃木県教育委員会並びにさくら市教育委員会から指定をいただき、国の「学校安全総合支援事業（防災教育推進事業）」を進めています。

この事業は、さくら市をモデル地域として、様々な自然災害に対して外部の専門家や地域の関係機関と連携して、防災教育に関するプログラムを開発・活用を図りながら、子どもたちが様々な状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動できる力を育成することを目的としたものです。本校はその中で、事業を実践し検証していく「モデル校（拠点校）」として、今年度研究や実践を行っているところです。

夏休み中の８月１０日には、実践に関わる方が集まり、この事業の概要や今年度の計画を話し合いました。宇都宮大学の先生や県防災士協会、市消防団、市役所総務課等の関係機関の方々、また、さくら市教育委員会教育長さんはじめ市教委、県教委のみなさん、市内の小中学校の代表のみなさん、そしてＰＴＡ会長さんなど学校関係者が参加しました。

教育長さんからは、防災教育をさくら市全体で進めたいこと、そのために　①知識と実践意欲の向上　②訓練や演習を通じた適切な行動の習得　③地域との連携　の３点を基本として、課題をふまえながら研究を進めたいというお話をいただきました。

出席いただいた皆さんからも、「以前に発生した地域での災害など、過去の体験に学ぶことも大切」「避難所になった際を想定した体験をするとよいのでは」「日頃行っている避難訓練を見直し、より実践的な訓練にするとよいのでは」など大変参考になるお話をいただきました。

この事業は、私の大切にしている「安心・安全な学校」（３つの「あ」…安全・あいさつ・後始末の一つでもあります）に関係しているものです。この指定研究をチャンスと捉え、１年という短い研究・実践期間ですが、より安心・安全な学校づくりに生かしたいと考えています。

７月には、この事業の一環として、着衣水泳教室（下記参照）も実施しました。会議でいただいた助言も参考に、今後も、避難訓練を工夫改善したり、有事の際に役立つ体験活動などを実施したりしようと計画しています。

（↓市教委特製の防災ステッカー）

保護者の皆様にも、防災に関するお知らせやお願いなども考えておりますので、どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。なお、本日９月１日に、防災に関する保健だよりと「親子でやってみよう！おうちのそなえチェックシート」、そして防災ステッカーを配りました。ぜひ、目を通していただき、チェックシートの実施にご協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

（着衣水泳（７月１８日）の様子です）

水難学会の方々を講師にお招きし、５・６年生が着衣水泳を学びました。

いざというときには「浮いて待つ」ということを学び、靴や服を身につけて水に入ったときの感覚や、ペットボトルを使って水に浮く体験をしました。人が水に浮くときには体の２パーセントしか水面から出ません。９８パーセントは沈んでしまいます。その２パーセント分をできるだけ顔にして（息ができるように）、「浮いて待つ」ことが大切ということを学びました。

また、大雨等での水害発生時、道路が冠水したときなどの歩き方の注意点なども学びました。冠水時に（水の中を）歩くときにはすり足で（マンホールのふたがはずれて、穴が空いているときがあるので、路面の状況を足で探るため）、膝ぐらいに水が上がっているときには絶対に水の中を歩かない（膝ぐらいで人は流されて助からなくなるため）ことなどを教えていただき水の中のすり足も体験しました。

「自分の命は（最後は）自分で守る」ことを学んだよい機会となりました。学会の皆様にも大変お世話になりました。

※学校ホームページも、少しずつ記事を更新しています。よろしければアクセスください。

押上小学校

で検索。

◎職員の紹介です

夏休みまで勤めていた養護教諭の和氣有紀が産前休暇に入りました。後任として、小川幸子（おがわ　さちこ）が保健室の先生として着任しました。

押上小がこんな学校に…

「一人一人が主人公の学校」

「みんなが幸せを感じる学校」

「『また明日ね』と笑顔で帰れる学校」